

算命学中庸

【初年】 65 回目

65 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】 (3)

【初年】 65 回目【天中殺の心得 (3)】 01

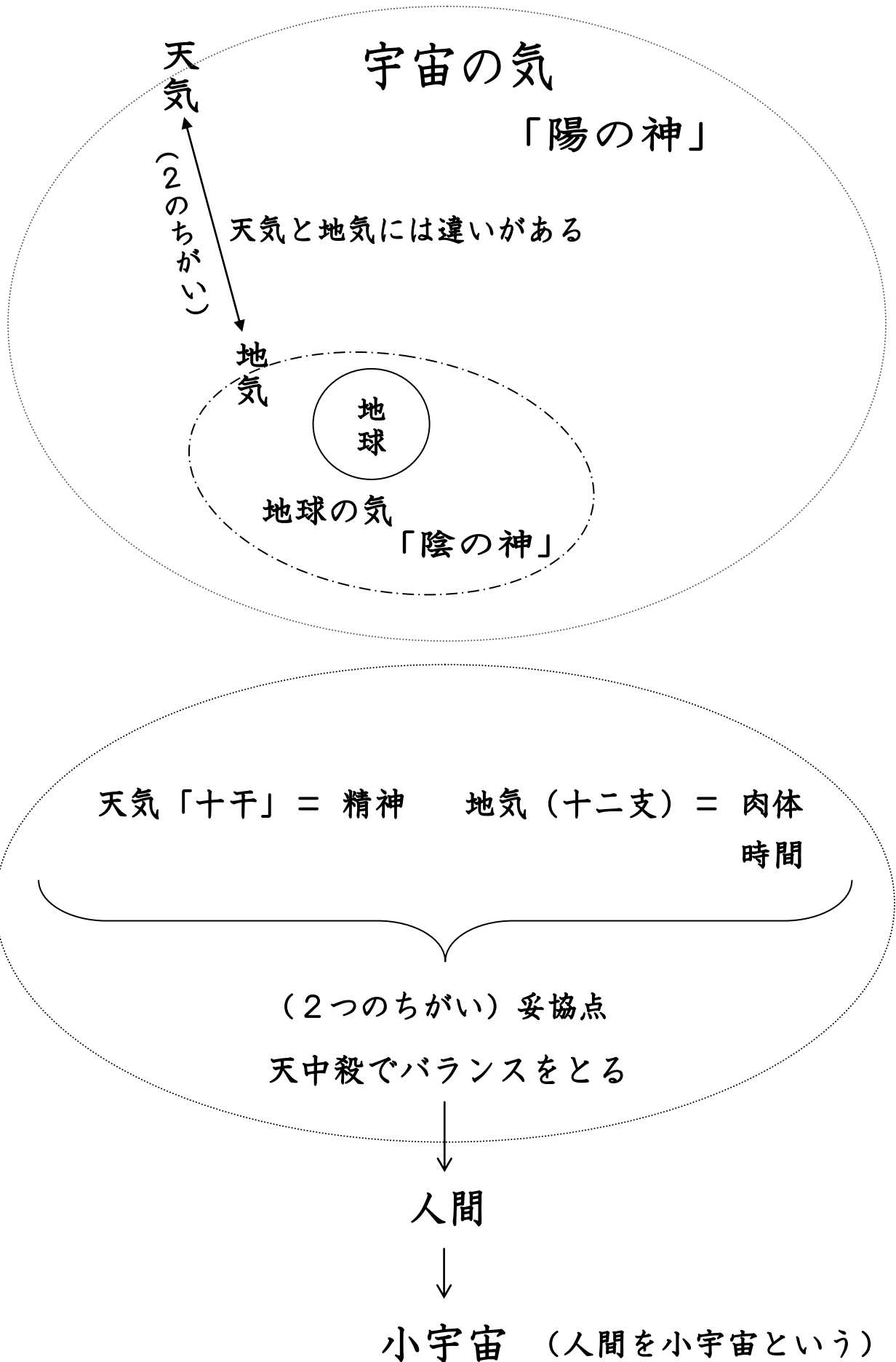
- ① 親と子の天中殺
- ② 兄弟の天中殺
- ③ 天中殺で人を雇う・人に雇われる

⇒ 精神は宇宙でできているとしています。

「天を精神」(地を肉体) このような捉え方をしています。

天気 ⇒ 精神
地気 ⇒ 肉体

〉 人気



人間はバランス（つりあい）がとれていれば、宿命どおりに生きられます。長生きできます。

天気は十干であらわされて、地気は十二支で現わされます。それは干支の姿です。

十干と十二支の違いの妥協点が天中殺です。

大宇宙があり、私たち人間は地球という惑星で生活しています。

人間は小宇宙であり、人間の肉体は地球に存在する物質で構成されていますが、精神は宇宙からもってきたと考えています。

それゆえに、天気が精神、地気の部分が肉体に相当します。

天気と地気を宿命であらわしたものが、人間の身体に入って「じんき人気」となるというあ在り方かたです。

天気と地気をあらわす干支は、一人一人違いますが、天気と地気を自分がもっているということは、天気と地気の違い、そこには **2** という数字が含まれるわけですから、誰もが天中殺をもつことになります。

「十干」と（十二支）の **2** の違いが天中殺です。

天中殺はグループごとに生まれてきます。

天中殺そのものは、単独で独立して、存在しているわけではないのです。

必ず、集団ごとに存在しますから、自分の天中殺が相手に対して、相手の天中殺が自分に対して、というように、グループの間で影響し合うわけです。

この事象も、天中殺そのものに存在する宿命の一つですから、自分の天中殺が相手に、相手の天中殺が自分にと影響し合うのです。

参考・存在〔それぞれの性質や動きや価値をもっていること〕

ご夫婦であれば、夫の天中殺が、あるいは、妻の天中殺が夫婦間に影響を及ぼします。

当然、集団を家族とすれば、子供も入りますから、親の天中殺が子供に、子供の天中殺が親に影響を及ぼします。

このことは、天中殺が成立したときから、天中殺がもつ宿命です。

自分が自身の天中殺に入っても、なんのわざわい禍も起こさない場合があります。

ところが、自分が天中殺に入ったのに、病気ひとつ

しないで「ああ、無事に過ぎて良かった……」と、何事もなく、天中殺が過ぎ去ったということは有り得ないのです。

なぜかといえ、天中殺はどこかに、誰かに波及します。

それは天中殺がグループで誕生するものだからです。

自分の天中殺のわざわい禍ともいえる現象が、自分自身に生じないで、まわりの人にも波及してしまう。

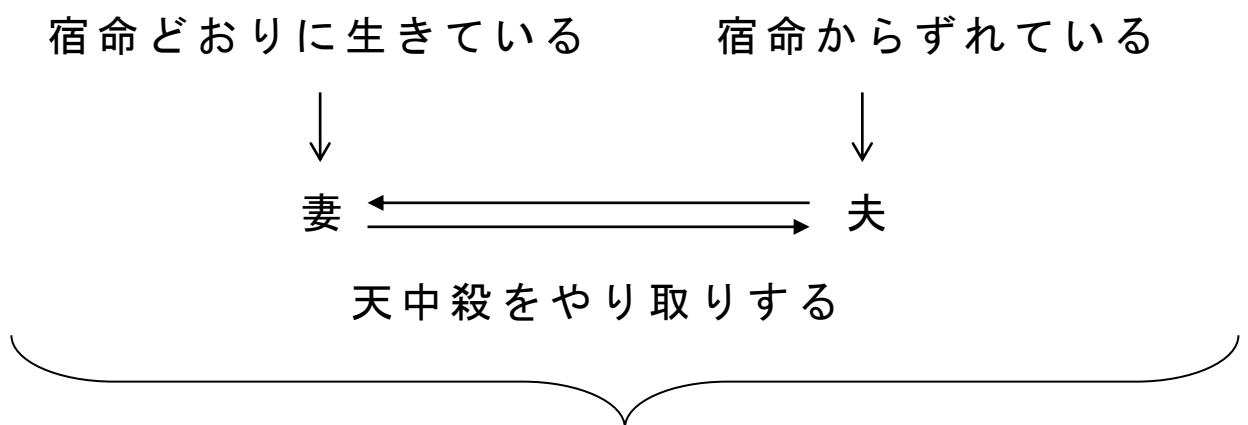
このようなくさきが起こるのです。

参考・波及〔余波が及ぶこと。だんだんと影響が及ぶこと〕

☞ 天中殺の影響という意味で、ご夫婦を^あ挙げます。

夫と妻がいれば、夫婦のあいだで天中殺を、お互いにやり取りします。

〔たとえば〕「妻は宿命どおりに生きている」けど「夫は宿命からずれている」とすれば、妻は夫から天中殺の影響を受ける(貰^{もら}う)のは少なくなります。



この構図は夫婦ですから〔横関係〕です。

☞ 〔夫婦は横の関係〕〔親子は縦の関係〕です。

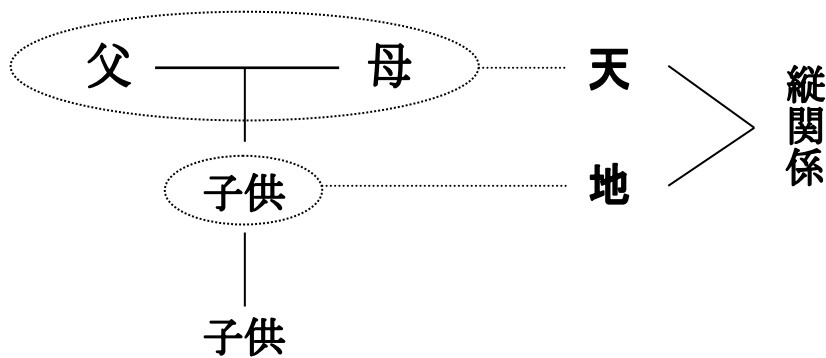
夫は宿命から外れた分、自分の天中殺と妻の天中殺の両方の影響を貰うことになります。

それゆえに、自分の天中殺のときに具合悪くなり、妻の天中殺のときには、夫はもっと具合悪くなるということが起ります。

① 親と子の天中殺

- ① 「親の天中殺で、運の上がる子供」
- ② 「親の天中殺で、運の下がる子供」
- ③ 「子供の天中殺、その影響を受ける親」

親と子の関係は、親がいて、子供がいますから……
たて
縦の関係です。



- ① 子供が小さいときは子供のほうが、親の天中殺の影響を受けるほうが大きい。
- ② 子供が大人になったとき
- ③ 子供が社会に出て活躍しているとき

親を**天**に見立てて、子供を**地**に見立てると、上下の関係です。親の気は子供へ向って流れていきます。そうしますと、「親の天中殺は子供に影響を与える」のが原則です。

子供が小さいとき（一人前でないとき）は、子供本人の天中殺の影響よりも、親の天中殺の影響を受ける割合がとても大きいのが原則です。（例外もあります）子供が自分の天中殺の禍を受けるとしても、それはとても小さくて、親の天中殺の影響を受ける程度のほうが大きいのです。

この段階では、親は子育てに一生懸命になりますから、親の天中殺がまともに子供へ影響を与えることになります。

つまり、子育てに一生懸命な姿は、親の気が子供に向いているということです。

そのうごきのなかで、子供が将来の進路を決めるという場合に……親が親自身の天中殺に入っているときに、親が独断で子供の進路を決めてしまうと、子供の進路を間違えることになります。

つまり〔子供がどの方面に向いているのか……〕ということについて、**親に言わせれば**、親が一番理解しているとの認識をもっています。

でも、その見定めが正しいとは決まっていません。
失敗することがあります。

子供が文系に行くか、理系に行くか、公立にするのか、私立にするのかとかの問題のときに、親が自分自身の天中殺に入ったら、親が子供の進路を決めるのは、やめたほうが良いのです。

第三者の意見（担任とか塾の先生とかの）を聞いて、対処したほうが良いのです。

ほとんどの場合……自分の子供のことは、親が1番良く理解していると思っています。

確かにそうかも知れないのですが、子供の将来に関わる大事な分かれ道のときに、親が自分の天中殺に入っているのであれば、『天中殺の気』を避けて、
とお
通ることです。避けなくてはいけないのです。

親が天中殺のときは、親自身の判断が不自然になります。つまり、判断に狂いが生じやすいのです。それゆえに、間違いが起りやすいといえます。

『気の流れ』は、水のように、上から下へ流れます。親は上で、子供は下なので、親が子供に及ぼす影響は、とても大きいと考えてください。

①「親の天中殺で、運の上がる子供」

②「親の天中殺で、運の下がる子供」

このことは、子供が大きくなってからの話です。

子供が一人前に成長して、大人になって、子供が親とおなじ社会性を身につけたとき、つまり、子供が世の中へ出て働くときです。

その時期に、“親離れする子”と“親離れしない子”とに分かれます。

昨今は、親離れしない子（できない子）が多くなっています。

親離れしなければ、いつまでも親の影響下にいます。つまり、親の運勢の影響を受けます。

親離れすれば、子供自身の運勢で動いていくことになりますから、親離れする子は、自分自身の天中殺が、自分に影響するようになります。

このように〔親離れする子〕と〔親離れしない子〕は、別の姿になります。

☞ 大学を出て、一流会社に勤めても、親と一緒にいれば食べるのに困らないでしょう。

親と同居の子供を可愛くて、手放さなければ……

親は自分の天中殺の気を、頭から子供に浴びせ掛けているのです。親離れしない子供が置かれた姿です。

当然、子供は親の天中殺巻き込まれます。

親の天中殺の影響が大きければ大変です。

⑧「親の天中殺で、運の下がる子供」です。

☞ 親に逆らう子供は、早く独立します。

親に逆らうわけですから、親にしてみれば、素直でよい子ではないともいえます。

子供は大人になれば親離れをします。

親離れするのは、当然のことであって、親元を離れて行く子供は、失敗しても、自ら立ち上がる強さを身につけます。親から離れることで、親の天中殺の影響を受けなくなります。

自分の天中殺の影響を受けるようになります。

これは自立した姿です。

子供が社会へ出て、活躍するようになると、親と子の縁はおなじですが、社会的立場で考えると……

親子の〔縦関係〕は、〔横関係〕に変わります。
親と子という縦関係から、子供が一人前になれば、
横関係になり、縦と横が重なり合った関係が生じて
来ます。

①「親の天中殺で、運の上がる子供」というのは……
子供が自分の天中殺現象を、親に与えて、子供本人
が延びる。ということです。
子供が成長して、子供の運勢が延びてと考えると、
親は年齢的に、親は60、70、80歳になっています。
年令差を単純に〔30歳〕と考えれば、子供が30歳
になると親は60歳、子供が40歳になると70歳に
なります。

そうしますと、子供の天中殺を“親が被る”状態を考
えると、場合によると、「親が命を失う」というこ
とにもなります。

親と子はずながっていますから、切り離すことはで
きません。夫婦もともと他人です。別れてしまえば
他人の状態に戻ります。切り離すことができます。
親と子は因縁が深いために、子供がもつ天中殺の
禍^{わざわい}を、子供から、親が浴びせられる状態があつて

も当然なのです。

〔たとえば〕子供が仕事で重大な岐路^{きろ}に立ったとき、子供自身が天中殺に入っていれば、子供は天中殺を乗り越えるために……親に自分の天中殺を与えて子供は延びて行くということも起ります。子供の天中殺現象を貰った親は大変です。子供の天中殺で、親が命を落とすことは多いです。それは親の役目でもあると考えているのです。

〔子供の天中殺で親が他界した場合は、その子供の禍を親が彼の世にもっていってくれるという考え方に基づいています。それが良いとか悪いとか論じていませんよ。〕

親子の縁は切れませんから、それは仕方のないことだと位置づけています。

子供が何人かいて、子供のなかの、誰かの天中殺で親が死ぬというのは、親にとって、その子が一番気がかりであったという証拠でもあるのです。

その子が成長しているとか、成長していないとかの問題ではないのです。

そして、親が子供たちを〔平等に愛している〕と、

いっても、それは有り得ないのです。

おなじ両親から生まれたのに、子供が3人いれば、個々に性格も容姿も異なります。

子供が3人いて、そのなかの1人は、自分が1番嫌いやな子供かも知れないのですが、とにかく気になって仕方がないということもあります。

1番気にかかる子供の天中殺の影響で、親が死ぬということは起ります。

しかし、親自身が自分の宿命どおりに生きていれば、天中殺の影響を受けにくいのです。

これは親子でもおなじです。

✽ 市川 團十郎 1946(s21)-8-6 [2013-2-3] 66 歳没

	壬	乙	丙		禄存星	天南星	1 丙申
寅	子	未	戊	石門星	牽牛星	車騎星	11 丁酉
卯		丁	辛	天将星	調舒星	天印星	21 戊戌
		乙	丁				31 己亥
	癸	己	戊				41 庚子
							51 辛丑
							61 壬寅

✽ 市川 海老蔵 1977(s52)-12-6

	丁	辛	丁		貫索星	天将星	10 庚戌
辰	酉	亥	巳	禄存星	牽牛星	石門星	20 己酉
巳		甲	戊	天貴星	禄存星	天報星	30 戊申
			庚				40 丁未
	辛	壬	丙				50 丙午
			生年中殺				60 乙巳
							70 甲辰

市川海老蔵の父・市川團十郎は 2004「甲申」に白血病を
発症しています。このことは宿命に「生年中殺」をもつ
海老蔵にとっては有り難いのです。（勉強ですよ）

2008「戊子」市川團十郎は妹から骨髄移植を受けます。
その後は比較的安定していたようです。

2013「己巳」-2-3〔66 歳没〕

2013 年は海老蔵の天中殺の辰巳天中殺の^{とし}年です。

海老蔵は 2010(h22)-11-25「西麻布事件」を起こしていま
す。〔海老蔵・事件当時 23 歳〕

海老蔵は父親とおなじように多くの女性関係がありまし
たが、飲み歩いて喧嘩になり、鼻の骨が陥没した事件で
す。タクシー代金を支払わず、問題にもなりました。

海老蔵は飲むと「人間国宝になる」わめいていたそうで
す。飲んで絡む^{から}ということがあって事件が起きました。

ここでは海老蔵の宿命に関して、詳しく触れませんが、
父親が息子の天中殺で死んだということは、市川團十郎
が海老蔵のことが気がかりであったといえるのです。

算命学では、海老蔵に降りかかる禍を、父親が彼の世に
もっていつてくれたと解釈するのです。

☞ 子供を犠牲にして、成功する親がいます。

普通以上に大成功している人は、ほとんどが子供を犠牲にしています。

それが良いとか、悪いとかを論じていません。

ノーベル賞を受賞した人でも、子供が犠牲になっている場合が多いのです。

〔たとえば〕人間が一生かかっている貯蓄額を2億円と仮定すれば、それには大変な労力を必要とするわけですが、それでも貯める人がいるわけですが。

それには何かしらを犠牲にしなければ、その金額をつくれないという考え方があります。

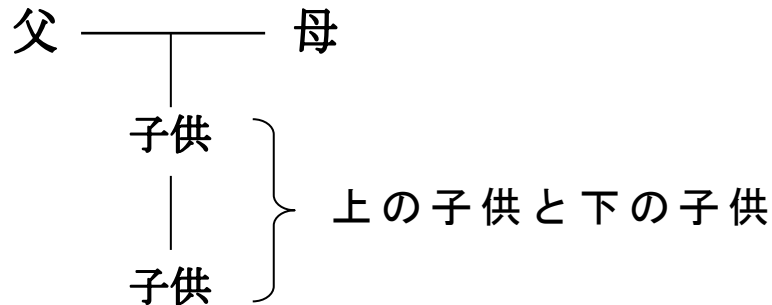
身内の誰かに、犠牲者をつくることによって、自分の運が想像以上に上がる場合があります。

〔たとえば〕オリンピックで金メダルを取るということもそうですが、それには肉親が最大の犠牲者になります。

自分の運勢の量は決まっていますから、誰かの運勢を取らなければ、大成功に結びつかないのです。

“それは誰でも良い”というわけにはいきませんので、犠牲者はやはり身内になります。

② 兄弟のあいだの天中殺

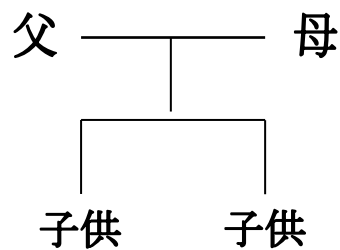


兄弟の場合は、上の子と下の子になります（縦線）

ところが……兄弟はもう一つ別のものがあります。

（日本の法律は、兄弟は横関係です）

それゆえに、遺産相続は2人なら1/2です。



兄弟のあいだで、天中殺を受ける度合いは非常に少ないです。成人して社会に出て行けば、まず関係がなくなります。兄弟がそれぞれ結婚して家庭をもてば、なおさら関係なくなります。

結婚をすれば、自分の核（集団）ができますから、そこにおける自分の天中殺の影響が大きくなります。

③〔天中殺で人を雇う〕〔天中殺で人に雇われる〕

天中殺のときに人を雇う、あるいは、天中殺のときに人に雇われる場合です。

このことに関しては、親子であっても、原則として、他人として考えないと成り立たちません。

経営者（雇う側） ————— 雇われる側

雇う側は経営者です。

会社は経営者の運勢で動いています。

〔たとえば〕うちの会社は、社長よりも専務のほうが実力は上です。ということは関係ないので、実力は二の次です。

雇われる側の運勢がどうか、こうとか言うよりも社長の運気で動きますから、社長が自分の天中殺に入ってから、その会社の業績が悪くなれば、社員の天中殺がどうだとか、こうだとかに関わらず悪くなります。

- ① 雇う側の人为天中殺で、雇われる側の人为天中殺ではない場合。
- ② 雇う側の人为天中殺ではなくて、雇われる側の人为天中殺の場合。
- ③ 両方とも天中殺の場合。

- ① 雇う側の人为天中殺の場合は、雇われる人は、分の運勢に関わらず影響を受けます。
- ② 雇われる側の人为天中殺の場合には、考え方が2つあります。
 - (1) 雇われる側の人、自分の天中殺で入社したら、その会社に対して迷惑をかける。
 - (2) 雇われる側の人、自分の天中殺で入社したら、その会社から、自分が迷惑をかけられる。

自分の天中殺で会社に入った場合は、入社した会社に長く勤めることはできないのが原則です。

自分の天中殺で会社に入って、長く勤めていたら、自分自身が会社の犠牲になっている——あるいは会社に迷惑をかけているかのどちらかです。

自分の天中殺で入社して、自分が犠牲になるという意味は――。

- ・ 病気で会社を休む。
- ・ 自分自身の人生（生活）を犠牲にする。

〔結婚ができない〕

〔結婚してうまくいかない。でも会社は辞めない〕

〔結婚しても離婚する〕〔結婚しない〕

◎ 雇う側の人も、雇われる側の人も天中殺。

つまり、両方とも天中殺の場合は、お互いに押しつけ合うことになります。

共倒れになることもあります。

つまり、雇う側の中心人が天中殺で、運が下降すれば、会社自体が駄目になってしまうことも考えられます。

そして、雇われた人も、自分の天中殺で入社したとなると、下降してゆく会社の足を引っ張るということが起こります。

* 田中 角栄 1918(t7)-5-4 [1993-12-16] 75 歳没

	辛	丙	戊		玉堂星	天胡星	1 丁巳
寅	亥	辰	午	調舒星	玉堂星	車騎星	11 戊午
卯	甲	乙		天恍星	牽牛星	天庫星	21 己未
		癸	己				31 庚申
	壬	戊	丁				41 辛酉
							51 壬戌
							61 癸亥
							71 甲子

* 田中 真紀子 1944(s19)-1-14

	丁	乙	癸		車騎星	天南星	8 庚戌
申	丑	丑	未	車騎星	車騎星	貫索星	18 己酉
酉	癸	癸	丁	天庫星	龍高星	天庫星	28 戊申
	辛	辛	乙				38 丁未
	己	己	己				48 丙午
							58 乙巳
							68 甲辰
							78 癸酉

田中真紀子の初当選 1993（H5）「癸酉」7月

田中角栄他界 1993（H5）「癸酉」12月

つまり、娘の天中殺で田中角栄は死んだのです。

田中角栄前総理は田中真紀子が初当選したとき、新潟入りして、娘の当選を悦^{よろこ}んだが、その5ヶ月後、真紀子さんの天中殺で死亡しました。

真紀子さんは天中殺で衆議院議員になっていますから、自分が大きく飛躍することは難しいのです。

人気と運勢は別です。

親は一番気になる子供の天中殺で死ぬということが起こります。

角栄氏は真紀子さんのことが気がかりで死んだと考えます。角栄氏は娘を当選させて、死にました。娘の犠牲になったと考えます。

真紀子さんの立場で考えますと、父・角栄氏に自分の天中殺を浴^あびせて、真紀子さんは当選を果たしたわけです。

【初年】 65回目【天中殺の心得（3）】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 66回目【天中殺の心得（4）】です。